

■アカウンティング研修

◆ねらい :経営層だけではなく、業務において「数字」を通じた視点はどの階層でも有用です。
本講座では、財務数値における基礎力の向上を目指し、数字を通じて市場環境を把握したり、現場の状況を正確に把握できる人材を育成します。

◆カリキュラム案

	内容	手法
AM	1. 会計の基本「財務三表」の理解 (1)損益計算書 ①損益計算書(PL)の構造 ②売上、利益とは何か ③5つの利益 ④損益の読み方 ⑤売上と利益に関する考察 (2)貸借対照表の構造 ①貸借対照表(BS)の構造 ②資産の内訳及び負債の内訳 ③自己資本率に関する考え方 (3)キャッシュフロー計算書 ①キャッシュフロー(CF)計算書の構造 ②FCFの重要性 ③CFを通じた経営分析	講義 個人ワーク グループワーク
	2. 実践演習① PLとBSの実践的理解 (1)売上高10%減を考える(損益構造の理解) (2)財務諸表の比較 演習:会社名をマスキングした上場企業 5社の有価証券報告書から 損益計算書と貸借対照表を抜粋し、選択肢の中から会社名を当てる	講義 グループワーク
PM	3. 実践演習② 損益の体感的理解 (1)ペーパータワー for アカウンティング ①A4用紙でタワーを作成。用紙はグループごとに希望枚数を事前申告 ②終了後、高さを計測。高さ1cm あたり10万円の売上。使用した用紙は1枚につき10万円の費用とし売上から差し引いて粗利を算出 ③粗利の50%(労働分配率)を人件費としてグループの人数で割って、1人当たりの給与を算出。グループ単位の給与額で競う	グループワーク
	4. 実践演習③ 同業他社比較 マクロ経済分析 (1)財務諸表の読み方 ～トレンド比較(同業他社での売上損益比較) (2)マクロ経済分析	講義 個人ワーク グループワーク
	5. 実践演習④ 経営・株価指標の分析 演習:会社四季報を活用した経営指標・株価指標の分析	講義 個人ワーク グループワーク
	6. まとめ	